

第11回 周南市スマートシティ推進協議会 議事要旨

■日 時：令和6年11月12日（火）15:00～16:20

■場 所：周南市役所 庁議室

■出席者：下表の通り

所属・団体名	役職	氏名	区分
東京大学大学院 工学系研究科	教授	羽藤 英二	学識経験者
周南公立大学 情報科学部	准教授	児玉 満	
徳山工業高等専門学校 情報電子工学科	准教授	柳澤 秀明	
徳山商工会議所	指導課主任	船井 辰郎	関係団体を代表する者
周南市社会福祉協議会	業務課地域福祉係長	竹重 紀代美	
周南市スポーツ協会	主査	砂田 優一郎	
周南市コミュニティ推進連絡協議会	副会長	加藤 洋	コミュニティ組織を代表する者
周南市コミュニティ推進連絡協議会		黒神 充久	
山口県企画部デジタル推進局	デジタル統括監	田中 貴光	オブザーバー

■配付資料

1. 第11回周南市スマートシティ推進協議会配席図

2. 周南市スマートシティ推進協議会委員名簿

3. 第11回周南市スマートシティ推進協議会資料

資料1 今年度事業（モデル地区）の進捗について

資料2 今年度事業（モデル地区以外）の進捗について

■要 旨

1. 開会

(事務局)

- ・ 本日は、委員 8 名中 8 名の出席をいただいておりますので、周南市スマートシティ推進協議会設置要綱第 6 条の規定により、本会議が成立していることを報告させていただきます。
- ・ 会議の開催にあたり、企画部次長の行富よりご挨拶を申し上げます。

2. 挨拶

(事務局 企画部 行富)

- ・ 本日は大変お忙しいところ、皆様ご出席いただきましてありがとうございます。
- ・ 今回の協議会におきましては、モデル地区をはじめとした市の取組の進捗状況の報告などを主な議題としています。
- ・ 様々なデジタルに関係する取組もございますし、このモデル地区での取組、さらに今、ご承知かと思いますが、自動運転EVバスも周南市を走っており、スマートシティを推進していくための未来を見据えた実証も様々始まっているところでございます。
- ・ 様々な取組に対しまして、皆様方からの忌憚のないご意見を賜ればと考えておりますので、本日はよろしくお願いいたします。

3. 議題

(会長)

- ・ 本日はモデル地区での今年度事業の内容と、モデル地区以外の内容につきまして、皆さんで報告を受けながら議論していければと思いますので、よろしくお願いいたします。
- ・ それではまず、モデル地区での今年度事業の進捗について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

(今年度事業 (モデル地区) の進捗について説明)

(会長)

- ・ 論理的にどういう方針で行うか、LINE オープンチャットの利用も含めて詰められていますので、横展開可能などところまで来ているのではないかと感じています。ぜひ皆さまからご意見いただけたらと思っておりますが、地元ということ一言ずついただけないかと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

(委員)

- ようやくですね、地元での活動が緒についたというところでしょうか。この秋ぐらいからいろいろなイベント等の機会があるごとに、チラシを積極的に配布して、それで進めてようやく132名までいったわけですがけれども、当面今年度中には200名を目標にまずやっ払いこうと考えているわけです。
- その中で、発信する事務局も今4名体制になりまして、男性1名、女性3名という形で行っています。今市民センターが使えない状態ですので定期的な打ち合わせができないんですけれども、スタッフは積極的に連絡を取り合いながら、どういった情報を配信していこうかということを一息懸命考えてくれております。
- 今月、地区の自主防災の避難訓練がありますので、この時も会場には地区の方が200名ぐらいいらっしゃると思いますので、来場者にも参加を呼び掛けていこうという計画でいます。今のところはそのような状況です。

(会長)

- 避難訓練等を利用した参加者の増加の仕方など、これから横展開していくうえでもそのあたりのノウハウが重要だと思いますので、ぜひこの場だけではなく次に横展開する皆さんとも共有できるような、こういう方法でやると登録者が増えるというところ、とても重要なところだと思いますので、何卒よろしく願いいたします。

(委員)

- 地域の情報発信の共有ツールの継続実証というところで、LINEの公式アカウントを地区のほうで展開しておりますが、なかなか登録者数が伸びておりません。また、イベント等での告知をして、少しでも多く登録者が増えるようにしていきたいと思っています。
- モデル地区でのスマートシティの推進というところで、こちらに地区としてどのように関わっていくのかというところがピンと来ていない部分がありますので、少し確認できたらと思っていますところでは。

(会長)

- 今のところ重要なところだと思いますが、提案公募制度を設けるというところはわかるんですけれども、地元のコミュニティサイドとしてどういった関わり方ができるのかというところについて補足できることがあれば、事務局から追加で説明いただけますか。

(事務局)

- ・ 地域の方々にどのような形で話をさせていただくかというところも含めて、検討を進めているところです。実際に提案公募制度を実施する場合に、モデル地区で収集した課題やニーズが基となっているところですので、事業を行う範囲をどこにするかという話にもなっていくんですけども、モデル地区で事業を行いたいという話があった際には改めて事業フィールドのご相談をさせていただくことになるかと考えておりますが、現状では詳しいお話ができない状態です。

(会長)

- ・ いかがでしょうか。

(委員)

- ・ まだ市のほうも明確ではないというところで、また何かあれば指示があるというところですかね。よく理解できていないところが、LINE のオープンチャットを使って始まっていくというところなんですけれども、そこに地区のこれまでワークショップで吸い上げていただいた要望とかそういったものがどのように絡んでいくのかというところは、まだ市のほうも検討中というところで考えておいてよろしいですか。それともこうやってやっていくというところがあれば教えていただきたいです。

(事務局)

- ・ 今、委員からお話いただいた内容で2つほどありまして、先ほどの事業提案のお話と、今いただいたのが仕組みの中での関わり方というところになってこようかと思えます。今年度につきましては、仕組みというのは実証的に取り組んでいる最中で、扱うテーマというのが解決したい課題によってテーマが異なってくると思えます。その中には当然今まで地域の方からお伺いした内容であったり、潜在的に行政の中で持っている課題などいろいろなものがあると認識しております。今回の実証につきましては、まずは既存の活動ということで学生さんがメインになってくると思うんですけども、そこで扱いたいテーマ、解決したい課題というのを、共有ツールで意見交換とか情報共有しながら実証を進めていくというような内容にはなっておりますが、将来的には当然ながらこの仕組みの中で、住民の皆様、また企業の方々、団体の方々など多様な主体の方々がそれぞれの課題を仕組みの中で課題解決のブラッシュアップを行っていくところを考えております。そういった意味で申しますと、今後この仕組みの実証を続けていくと、当然ながら参画主体が広がっていきますので、その中で一緒に、運営の中に行政も入っておりますので、行政も課題があれば仕組みを活用していくということも想定しております。

- それとは別に公募の中では、行政と企業がタイアップして課題を解決していくような制度、手段の1つを実証的に取り組んでいきたいと考えておりますので、そういった面で仕組みの実証と公募制度の仕組みというのはそのあたりで棲み分けがあるというところです。
- 最終的には皆さんと一緒に仕組みの中で課題を解決していくということが将来的な理想にはなってきます。

(委員)

- 先ほど申し上げましたけれど、ようやく地域でスタートし始めたばかりなので、まずは登録者数をいかに増やすかという活動をしているわけなんですけれども、そういった中で新たな活動となると、やっている人がついていけなくなってしまうんですね。提案公募制度を実施しましょうとか、共有ツールでLINEのオープンチャットをしていきましょうとか、とにかくスピードが速すぎてついていけないようになっていくと思いますので、そのあたりはよく地元の状況を見ながら進めてもらいたいと思います。まずは地元で登録者数を増やす活動をしていくということに専念したいですね。そのあとに、先ほど言われたようなモデル地区でのスマートシティ推進支援などを進めていってはどうかと思います。

(会長)

- 今まで地元で頑張って議論と理解を積み重ねてきたところがありますので、それが結果としてどうなったのかというところがわかりやすい形でないと、よくスマートシティ業界でおきている不信感というのが、便利な分置き去りにされてしまう人が出て、少しそういった疑念も起きかねませんので、進め方についてはできる限り歩調を合わせてというのがコミュニティサイドからのご意見だったのではないかと思います。

(委員)

- モデル地区のLINEの登録者数は増加したということだったんですが、今後情報の受発信においては、行政情報分野の発信に絞った形で市の公式LINEの機能拡充から開始となっていたと思いますが、今現在の市の公式LINEの登録者数を聞いてみたいのと、行政から情報発信される際にいろんな課があると思いますが、スマートシティ推進課がすべての情報をとりまとめて公式LINEで登録者に情報を流しているのか、今現在で発信している情報はどのようなものがあるのか聞いてみたいです。

(会長)

- いかがでしょうか。

(事務局)

- ・ 市の公式LINEの現在の登録者数は3029人となっています。
- ・ 現在、周南市の公式LINEでどのように情報発信しているかという部分ですが、現状はシティプロモーションに特化して情報を発信しているところです。周南市の関係人口を増やしていくためにイベント情報などを県外の方も含めて発信しているという状態です。
- ・ 今後、情報の受発信を行っていくにあたり、どのようなところが情報を集約していくのかというご質問だったと認識しましたが、今後は広報広聴課という広報部門がございますので、広報部門において体制などの整備を行ってまいります。情報をどのように発信していくかという点につきましては、これから庁内調整を行いながら決定していく事項となりますので、1つの部署が集約して行うのか、各課が必要な時に発信できる体制となるのかという部分は決まっていない状況です。

(会長)

- ・ 規模感とか、スマートシティ担当部署単独でということではないという、これから相談しながらということがおわかりいただけたかと思います。

(委員)

- ・ 私の立場もどちらかという地域で、歩調がゆっくりな方かと思っているんですけども、今周陽と遠石でされている情報発信については、発信のみというイメージでよろしいでしょうか。リアクションなどがわかるものでしょうか。一歩通行なんです。受け取る側としてもあまりにも情報が多ければ嫌になったり、コアな地域の情報だったら楽しそうだなとか、そういった発信の仕方もあるのかなと思うんですけども、その辺のフォローも行政のほうでしていただけるような仕組みがあったらいいのかなと思うのと、検証・検討項目にもあります人材発掘のところ、管理や情報発信ができそうな人が地域にいるか、といった場合にせっかくデジタルを活用して収集したデータがあるのであれば、いかに活用してそれを人材発掘につなげていくかという一緒に考えていただけると活かされた事業になるのかなと感じました。

(会長)

- ・ 大変貴重なご意見だったのではないかと思います。確かに情報が出すぎたり反応を求められたりすると負担が大きくなるというところもありますので、ほどよいバランスのプラットフォームを、周南市のスマートシティをどうつくっていくかというところ、なかなか一筋縄ではと思いますが、今まで事務局サイドで地元と

積み上げてきたこともあると思いますので、そうしたことを活かしながら周南市らしい落としどころを地元の皆さんと協議しながらつくり込んでいくというところ、非常に適格なご指摘をいただけたと思います。

(委員)

- ・ 情報発信共有ツールの実証のところになりますが、せっかくモデル地区の遠石地区、周陽地区でやられているので、今発信しながら「こうしたらよいよね」という工夫をしながらされている部分を今後他の地区でもこういったものをどんどん使っていこうという話にもなろうと思いますので、マニュアルは作ったほうが良いと思いました。そうすることによって、担い手の部分について、ある程度 IT の感覚がある方は大体やっていいことと悪いことが肌感覚でわかると思いますが、何もわからない人はそもそも何していいかわからないというところになってくるので、ルール作りといったところでマニュアルとして残し、このとおりにやってねというところが大事かと思います。とはいえ、あまりガチガチになると、それはそれでよろしくないなので、そこは地域の中で相談しながらということになると思いますが、まずは形として残すということは大事かなと思いました。
- ・ 仕組みのところですが、モデル地区でやるとなったときに、主体が学生というところでいろんな人が絡みすぎて逆にイメージがつきにくいというか、構築に対して相当な時間がかかり、人手もかかると考えたときに、LINE での発信がちゃんと認知されてから、このあたりに移るんでしょうけれども、地域と学生と企業、住民となると本当に規模が広い話になり、これができるのはだいたい先、5年10年を見据えてという形になると思うので、非常にルール作りから慎重にやっけないといけない部分になります。やりながらトライ&エラーでできるかというところ、なかなか初めの構築部分からしっかりやっけないと、トラブルというところ、それぞれの認識を合わせる必要もあると思います。例えば中山間であれば熊が出て大変だからどうにかしたい、でもお金がないから市に陳情しようとかそういうものが過去にいろいろあったと思いますが、デジタルツールを絡ませるとややこしいことになるというところもあるので、そのあたりも考えながら慎重にやっっていくべきかなと思いました。

(会長)

- ・ 地域、学生、企業、住民の方々、そして役所が同じデジタルのプラットフォームで、リアルでも難しいところが本当に齟齬なく誤解なくうまく力にしていけるのかというところがノウハウの蓄積も含めて大事だし、マニュアル化というほど固くはないにしても、良い具合の運営の仕方について情報の共有をしながら慎重にやっついてほしいというところ、非常に的確なご指摘じゃないかと思います。

で、ぜひそうした視点で運営の際に留意する点などを共有しながら、しっかりと進めていただけたらと思います。

(委員)

- 徳山高専としては、継続的なスマートシティ推進のための仕組みの実証というところで協力をさせていただくことになっております。来週実施されるミニフォーラムという形で学生を参加させて、ツールの使い方等々で意見交換をするところから始めようという形になっております。
- 参加者として私が担当する部分は、授業の一環として参加してくれる学生さんを対象としていまして、授業であるので企業さんからの強い要望などは基本的にお断りする形になりますので、学生の取組を見守ってもらう意見をいただくことはありますけれども、企業さんの方向性で意に沿わない形になることがないように、授業の方向性が変わることがないように、という形で参加する学生の希望者、全員強制的にやらせるという形ではなくて、今までワークショップ等々で出てきた意見の中から学生が取り組んでもよいと興味をもったものに対して、半年間アイデア出しを行い、その後の半年間をかけてシステムづくりに移していけたらよいという取組の授業なのですが、その中でオープンチャット等を使った取組の実証というところで参加させてもらうことになっております。
- 1点気になっていたのは、住民の方がどう関わるのか、意見を述べた方がどうフィードバックを受けることができるのかというのは気になっていたところです。私が理解しているところとしては、意見が出てきたものを徳山高専または周南公立大学の学生さんが何らかの意見の提案等を行って、それをチャット上でやり取りしてブラッシュアップするという形で取り組んでいくものかなということです。ツールの使い方によっては、いろいろ分かれるところがありますので、一般公開される部分と情報共有する部分と、という使い分け等も必要になるので、進め方は慣れないと難しいのかなと思います。どうしても意見を言いたいほうに書いてしまうと、こっちで書いたけどこっちでは書いていないといった、オンラインツールではよくあると思いますが、スレッド違いなどもあると思いますので、そういう慣れを経験してもらうことで良くなっていくのかなというのは考えております。
- 取組がうまくいけば、モデル地区でのスマートシティ推進支援、企業さんとか地域のニーズを提案してもらうサイトを作っておいて、そこに挙げられた情報を徳山高専や周南公立大学の学生が受け付け、その活動をWEB上で公開する形で進んでいけたらもう少し見やすい形になるかと思っています。
- 今のままだと、意見はいただいたけれどもその議論がどこで行われているかということ意見をいただいた方には見せることができないですし、それを探すというのも難しい状況なのかと思っています。システムがうまく回りだしたら、地域

の課題に対しても学生の力を得て解決に向けて取組ができるのではないかと考えているところです。

(会長)

- ・ 非常にわかりやすかったと思います。授業の一環、演習的な形で時間をかけて教員が監視をしながらやるということが一定の信頼感、補償、学生を育てていくとか、ネットのリテラシーも含めて繰り返していくことで相当な効果はあると思います。このあたりは安心感がある仕組みを市からもご提案いただけているのではないかという気がします、それでもなお、ネット上でのコミュニケーションは勘違いなどよくあるところに、リアルでのコミュニケーションに慣れている方も混ざってくることになりますので、そこをどうやっていくのかというところが一番重要なチャレンジだと思いますし、それが足踏みするというよりは1歩だけちょっと前に出ていただいて、両者でやってよかったなと思うところをどうつくっていくかというところ、空気までは作れてきていると思いますので、今回学生の皆さんの頑張りとは歩調を合わせながらやれると非常に良いものになるのではないかと思います。

(委員)

- ・ 私が感じるころなんですけれども、実証が結構進んできてそろそろ課題とかがたくさん出てきている頃かと思いますので、課題をリストアップして1つ1つ解決できるようにしていけば、実証につながっていくと思っておりますので、ぜひそのように進めてほしいと思います。
- ・ 事務局に1つ聞きたいのですが、モデル地区でのスマートシティ推進支援というところで、提案公募制度の枠組みの検証とありますが、企業さんが公募してくるという形で良いのでしょうか。企業さん以外でも公募が可能なのか知りたいのですが、お答えいただけたらと思います。

(会長)

- ・ いかがでしょうか。

(事務局)

- ・ 提案公募制度の枠組みについては検討中のところではございますが、背景といたしまして、モデル地区も含めて様々な課題・ニーズをいただいている中で、シーズと組み合わせる方向に向けていくということがなかなか難しいというところがございますので、そういった意味では今の想定では技術等をお持ちの企業から提案いただくのが目的の達成に近づいていくのではないかと認識しています。

(委員)

- まだ決まっていないことなので、聞くのもどうかと思いますが、周南市以外でも良いということでしょうか。

(事務局)

- そこについては、今制限は考えておりません。

(会長)

- 委員の皆様におかれましては大体状況を共有できたと思っております。着実な方法を周南市さんとしてはご提案していただいている、可能性のあるプラットフォームをできるだけアジャイルに進めていきたいということで、LINEのオープンチャットを選びつつ、まず学生さんの試みも含めて少しゆっくりとしたスタートではありますが、着実に繰り返していけるところから始めつつ、様々な企業への門戸も開いておくような形でのプラットフォームづくりが求められているというところでのご提案です。
- ただし、今まで積み上げてきたところが、2地区においてありますので、それもちゃんと踏まつつというところは資料のほうでも書かれておりますため、変な誤解を受けることのないようしっかりと進め方でやっていくことができればいいものになっていくのではないかという印象をもちました。
- オブザーバーからもコメントをお願いします。

(オブザーバー)

- 先程来議論されております、モデル地区でのスマートシティ推進支援のところなんですけれども、県の取組で近いところをご紹介させていただくと、シビックテックチャレンジという営みを実施しています。
- 各市町の方々の課題をまずは出して、その課題解決に対して、企業さんで「私たちだったらこういう解決ができます」というのをマッチングして取り組む事業をここ3年ぐらいやっております。各市町の方々については、いきなり課題を100%解決していくというのはなかなか難しいことなので、課題に対してノウハウや技術をもっている企業さんとうまくマッチングをすることで課題解決に向けたトライアルができるというところが、課題ホルダーの方々にはメリットがあると思います。
- 企業さんにおいては、社会課題解決に対する取組を進めていきたいとか、こういう技術を持っているというのを試す機会という形で取り組むということがメリットがあるということをやっています。

- ・ そういう取組に近いところを想像されていらっしゃるのではなかろうかと思っ
ていまして、これをいきなり 100%にもっていくのは難しいところかと思うんで
すけれど、県で取り組んでいる中では、課題を持っている人が思いをもって出し
ていただくことに対して、企業さんがうまくマッチングできると、アジャイルに
実証していくというところができるのかと思っています。
- ・ うまく周南市においてどう建付けていくかは検討を進めていく必要があるのかな
と思いますが、県でもそういった取組を実施しているというところでご紹介させ
ていただきました。
- ・ スマートシティ推進のための仕組みの実証は、とてもチャレンジングな取組だと思
っています。県の動きでも、こういったコミュニティで課題を解決していこう
という取組も Y-BASE でやっていたりします。そこでの課題は、コミュニティを
うまくマネジメントしていくことがなかなか難しいところがあったりします。通
常の受委託の関係ならば普通にやっていけばよいのですが、コミュニティの中
でうまく課題を解決していくためにはどうしても、うまくそれを引っ張っていくこ
とも重要ですし、翻訳をうまくしていただける方も必要かと思っています。学生
がその中でということで、先生方が後ろにいらっしゃるということは、その辺を
うまく見ていただいて、課題に対しての学生さんの思いを汲んで翻訳していただ
ける関係があるかと思っすごく良いと思っていますし、地区の皆様もいらっし
やいますので、住民の方がこういう課題を解決したいんだと言われることに対し
て、まず翻訳しながら、学生さんとか取り組んでいただける方とうまくつながる
ような仕組みができると、うまく進んでいく形になると思いました。県も試行錯
誤しながら取り組んでいるところもありまして、全国的にもコミュニティでうま
く課題解決していくところについてはたくさん苦労しながらやってらっしゃると
ころが多いと聞いていますので、こうしたスマートシティ推進協議会の中で皆さ
んのご意見を聞きながら進めていけると良いと思います。

(会長)

- ・ それでは次の議題について説明をお願いします。

(事務局)

(今年度事業（モデル地区以外）の進捗について説明)

(会長)

- ・ モデル地区以外のところの進捗と、フォーラムと自動運転EVバスについての実
験についての報告でしたが、何かご意見ある方おられますでしょうか。
- ・ 本協議会もずっと続けてきておりますけれども、今年度割合大きな変化と申しま
すか、少しプラットフォームそのものを完全にデジタルにしていく中で今までの

活動をベースにして展開していくためのプラットフォームの組み方の座組の説明が今日あったというふうにご理解いただけたことと思います。

- 進めていく上ではいろいろな疑問や不安、あるいは期待があるかと思いますが、ここまできっちりやってきていただけたことを1つベースにしながら、学生の皆さんの共同作業をまず出発点としつつ、先生方のご協力を得ながら、1つでも2つでも具体的な取組につなげていきたい。
- 地域での課題がはっきりすれば、協力してくれる企業体が出てくることは間違いありませんので、そこでの経験、あるいはスマートシティの回し方みたいなものを地域の中でルール化、あるいは共通認識を持ちながら進めていくことができれば、非常に先進的な周南市らしいスマートシティの取組につながってくると思いますので、ぜひ皆様におかれましては今年度もご協力いただきたいと思います。
- 同時に、自動運転EVバスの実験も進んでおります。こうした目に見えるものだけが全てではございませんけれども、やはり動くものがあることで市民の皆様の関心も高まってくると思いますので、ぜひ引き続き周南市のスマートシティの推進にご協力いただけたらと思います。

(委員)

- 今週の18日のミニフォーラムの対象は実証参加者となっておりますが、これは実証参加者の中の活動主体の方が対象と考えてよろしいでしょうか。

(会長)

- おそらくみなさんに開かれてはいるんですよ。

(事務局)

- 直前に決まったこともありご案内できていないところではあるのですが、参加自体は関心がある企業さんや住民の方につきましてもご参加いただくことは可能です。

(委員)

- 実証参加者と書いてあるので、企業や住民も入ると思いますが、活動主体の方でよいのかの確認です。

(事務局)

- 今回で言えば活動主体の学生さんであつたりということになりますが、講座自体は開かれたものになりますので、その日にご参加いただくことは可能としております。

(会長)

- ・ 議題は以上となりますので事務局にお返しします。

(事務局)

- ・ ご説明をさせていただきました各取組であったり、記載の取組におきまして、関係機関の皆様におかれましては、企画段階の調整などにご協力いただきありがとうございます。これからも引き続きご協力をお願いします。
- ・ 第12回の周南市スマートシティ推進協議会については、令和7年2月または3月ごろの開催を予定しています。正式な日時が確定次第ご連絡させていただきますので、ご出席をよろしく願いいたします。

6. 閉会

(事務局)

- ・ 以上で第11回周南市スマートシティ推進協議会を閉会します。

以上